



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 24, January 2019

# Newsletter



## 年頭の挨拶

公益財団法人日本学術協力財団  
会長 吉川 弘之



### 科学者の社会的責任

新しい年を迎え、いろいろ計画を立てておられることと思います。昨年も本庶先生のノーベル賞受賞で、改めて我が国の科学が健在であることを実感しました。世界で高い評価を受ける研究をする、これは科学者のだれでもが持つ原則であり、これからも素晴らしい研究が続くことを願わずにはられません。

科学のみならず、それに基礎を置く技術も高速で進展しています。生命科学に基礎づけられた医療の進展、情報学に基づく情報化による社会の効率の向上、これらは私たちの日常生活にも高速で浸透しています。しかも今広く話題になっている国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」の17項目の多くは、科学技術の適用が期待されています。

これらの進展や計画の実現は大きな事業であり、政府の方針や企業の役割でしょうが、科学者はその実現の根拠を作ったことを誇りに思います。しかし昨年来の『学術の動向』の標語、“科学と社会をつなぐ”の立場に立った時、それだけでよいのかと問うことが必要になると思われま。技術の高速な社会的浸透に対して生命倫理や情報倫理が問題になるとき、根拠を作った科学者がすべきことは何か。そしてSDGsにおいては、それがこれから新しい科学と技術の適用であることを考えれば、適用の方法について熟考する必要があるのではないかと。

this issue

年頭の挨拶  
学術会議叢書 25 発刊について  
寄附金及び賛助会費の税額控除  
データベース「学会名鑑」について  
公開講演会開催に対する支援  
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人  
日本学術協力財団  
〒107-0052  
東京都港区赤坂 4-9-3  
TEL 03-3403-9788  
FAX 03-5410-1822  
URL <http://jssf86.org/>

2019年1月1日発行

私たちはすでに、科学、あるいは技術の社会的適用が問題を起こした歴史を数多く知っています。エネルギーや資源の大量使用技術が環境劣化を引き起こした、科学的新発見や先端的技術が大量破壊兵器を作った、知識利用の地域的不均衡が格差を生んだ、過当経済競争が過酷な労働や資源の無駄を生じさせた、などはすでに経験したことであり、これからは情報技術が人の労働を奪うかもしれない、生命科学の行き過ぎた農業、畜産への影響が生物多様性を破壊するかもしれないなどは未来に関する不安です。

私たちが持つこれらの深刻な経験は、不思議なことに研究分野として大きく取り上げられることもなく、専門家が活躍する社会的場は貧弱であるとしか言いようがありません。これらを研究する意思を持つ科学者を生みだし、それを大事にする環境が不可欠です。またこれらの問題に対する科学者の政策への中立的助言の必要性が国際的には大きな話題になっていますが、我が国ではそれが無視され続けています。

科学技術が社会に何をもたらすか、この言葉の一般的な広がりに応えるために、それを深く考える場と人を作り出すこと、それは科学者自身の責任です。

## 学術会議叢書 25

### 『IT・ビッグデータと薬学—創薬・医薬品適正使用への活用（仮）』の 発刊について

財団では、毎年、学術図書として『学術会議叢書』を発刊しています。平成30年度は、『IT・ビッグデータと薬学—創薬・医薬品適正使用への活用（仮）』と題し、発刊を予定しています。

内容は、「創薬」「ビッグデータ」「人工知能（AI）」等をキーワードに、医療系薬学分野におけるビッグデータの利活用や発展性などについて、グローバルな視点から議論を展開いたします。

現在、2月の発刊を目指して、鋭意、作業を行っています。是非、ご期待ください。

なお、この叢書につきましても、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約1,500か所の国公立図書館、大学図書館等に寄贈することになっております。

#### 【執筆予定者】

- |       |       |                |             |       |
|-------|-------|----------------|-------------|-------|
| ・望月真弓 | ・土井健史 | ・藤谷秀章          | ・水口賢司       | ・本間光貴 |
| ・白井宏樹 | ・山崎一人 | ・河岡慎平          | ・佐藤匠徳       | ・笠原 忠 |
| ・寺崎哲也 | ・入江徹美 | ・本間正充          | ・石川ベンジャミン光一 |       |
| ・田中 博 | ・康永秀生 | ・I. Kostanjsek | ・伊藤美千穂      | ・宇山佳明 |
| ・森田正実 | ・谷 伸悦 |                |             |       |

(敬称略)

## 学術関係団体事務支援事業

### 【日本農学アカデミー】

平成30年11月3日、東京大学弥生キャンパス弥生講堂においてシンポジウム「水産養殖研究の最前線—持続可能な養殖業を目指して—」が開催され、財団がその支援を行いました。

## 公開シンポジウム開催について

財団では、日本学術会議と連携・協力して、現在の公益法人制度の見直しに向けた検討を進めておりますが、この度、その検討状況をふまえて、公開シンポジウム「学術を発展させる法人化制度に向けた提言～公益法人10周年～」を平成30年11月8日に開催いたしました。

当日の講演資料等、財団ホームページにて公開しておりますので、是非ご覧ください。

<http://jssf86.org/works1.1-20181108symposium.html>

## 寄附金及び賛助会費の税額控除について

公益財団法人である弊財団に対する賛助会費・寄附金は、特定公益増進法人への寄附金として、確定申告により税額控除等の税制上の優遇措置を受けられます。

個人の方の弊財団に対する賛助会費及び寄附金につきましては、確定申告により、所得税の**税額控除**または**所得控除**のいずれかを選択して受けることができます。

また、本年1月1日現在、東京都にお住まいの方は**個人住民税の税額控除**を、東京都港区にお住まいの方は**特別区民税の税額控除**も、確定申告により受けることができます。

法人の場合は、法人税について、一般寄附金の損金算入限度額とは別枠で、特定公益増進法人に対する寄附金として特別損金に算入できます。算入限度額を超えた分は、一般の寄附金に係る損金算入限度額に算入できません。

昨年1月1日～12月31日までにいただいた賛助会費・寄附金につきましては、本年の確定申告の際に必要な領収証等を、昨年12月初旬にお送りいたしました。

(本年1月以降に賛助会費をお振込みいただいた場合は、本年12月初旬頃に書類を送付する予定です。)

控除の限度額等の詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

## データベース学会名鑑

### —平成30年度調査について

財団は、平成23年7月より、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構

(JST)と連携してデータベース学会名鑑の運用を行っております。掲載学会は、日本学術会議協力学術研究団体を対象とし、毎年、日本学術会議が行う実態調査を基にデータを更新しております。

本サイトは、学協会関係の各種施策の企画・立案等、社会の多方面で活用されています。

平成30年度調査は、平成30年10月より開始されていますので、各学術団体の関係者の皆様におかれましては、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

データベース学会名鑑 URL

<https://gakkai.jst.go.jp/gakkai>



## 日本学術会議地区会議の 公開講演会開催に対する 支援

財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

### ◎第三部主催

「AIとIoTが拓く未来の暮らし  
—情報化社会の光と影」

日時：平成30年8月2日(木)

場所：東北大学

### ◎第二部主催

「東日本大震災後の福島県立医科大学の  
対応—福島県『県民健康調査他』」

日時：平成30年8月5日(日)

場所：福島県立医科大学

### ◎近畿地区会議学術講演会

「社会脳から心を探る—自己と他者を  
つなぐ社会適応の脳内メカニズム」

日時：平成30年10月20日(土)

場所：京都大学

### ◎中部地区会議学術講演会

「地域をフィールドとした研究の可能性」

日時：平成30年11月16日(金)

場所：三重大学

### ◎中国・四国地区会議学術講演会

「地域の持続性に貢献するオンリーワン  
研究の展開」

日時：平成30年11月17日(土)

場所：とりぎん文化会館



## 出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822



### 学術の動向

A4判・本体価格 720円＋税（送料込）  
年間購読 8,230円（税・送料込）  
賛助会員は毎号1冊無料配布

- 18年 10月号 人文・社会科学系研究の未来像を描く  
—研究の発展につながる評価とは—  
若手科学者が取り組む国際的活動  
—国際舞台での日本の存在感拡大を目指して—
- 11月号 若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術  
横断的社会連携  
「学術支援・研究職」の現状と課題—ジェンダー視点からの検討—
- 12月号 ジェンダー視点が変わる社会および科学・技術の未来  
若手科学者サミット—よい研究とは—



### 学術会議叢書

A5判・本体価格 1,800円＋税（送料別）  
賛助会員は割引価格 1,750円（税・送料込）

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 2 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築 | 20 放射能除染の土壌科学          |
| 9 医療事故は予防できるか          | 21 高レベル放射性廃棄物の最終処分について |
| 12 どこまで進んだ男女共同参画       | 22 地殻災害の軽減と学術・教育       |
| 16 食の安全を求めて            | 23 子どもの健康を育むために        |
| 17 ダーウィンの世界            | 24 『いのち』はいかに語りうるか？     |
| 18 科学を文化に              |                        |



### 日学新書

新書判 本体価格 750円＋税（送料別）  
賛助会員は割引価格 730円（税・送料込）

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり

◎当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。

## 公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3

TEL 03-3403-9788

03-5410-0242

FAX 03-5410-1822

URL <http://jsf86.org/>